



縄文人の造形美—蝶形骨器

第10回

蝶形骨器は蝶々が羽根を広げた形に似ていることから名前が付けられました。現在沖縄県内だけで見つかっています。今から約4000年前の縄文時代後期、主にジュゴンのアゴの骨やあばら骨を使って作られました。表面には幾何学的な文様が彫られていて、赤い顔料が塗られている場合もあります。

美ら島
まるごと
ミュージアム



嘉手納貝塚出土の蝶形骨器

嘉手納貝塚は嘉手納ロータリーから西に約400mの所にある縄文時代後期の遺跡です。昭和31・32年に琉球政府文化財保護委員会によって発掘調査が行われた結果、土器や石器などとともに蝶形骨器が出土しました。

この蝶形骨器は長さ7.8cmで、右下と左下が欠けています。ジュゴンの下アゴの骨を削って作られていて表面には文様が彫られています。また裏面の1カ所に小さな穴がけられています。

蝶形骨器には、組み合わせて使うタイプと、1個からなるタイプの2種類がありますが、今回の例は前者に属します。蝶形骨器はアクセサリーやお守りとして使われたと考えられていますが、詳しいことは分かっていません。

県立博物館・美術館



<http://www.museums.pref.okinawa.jp/>